新年の飛躍を誓う
平成30年「只見町新年交歓会」

1月5日、季の郷湯ら里で「平成30年只見町新年交歓会」を開催し、町内の事業者や団体など約150名の方が出席し、新年を祝いました。

年頭の挨拶では、菅家町長が「本町の最重要課題である人口減少に歯止めをかけるべく、住民と行政との協働、自然との共生など六つの基本政策を柱にした町づくりに取り組んでいきます」とし、続けて齋藤町議会議長が「町創生の種をまき、芽を育てる施策について町当局と共に切磋琢磨し、町発展のために全力を尽くします」と話しました。また、大谷英明県南会津地方振興局長が「県として、地方創生の推進などを、地域とともに取り組んでいきます」と祝辞を述べられました。

その後、只見松楓会が祝謡「鶴亀」を披露し、五十嵐聰江町赤十字奉仕団委員長の発声で乾杯しました。

祝宴では、つくし会による「高砂」、「千鳥の舞い」の舞踊が披露され、最後に只見町区長連絡協議会長の長谷部多一只見区長による万歳三唱で、今年のさらなる飛躍を出席者とともに誓いました。

▲五十嵐委員長の発声で乾杯する出席者

▲祝謡を披露する只見松楓会の方々

防火の誓い新たに
「平成30年消防出初め式」実施

1月6日、朝日振興センターで「平成30年消防出初め式」が行われ、団員や婦人消防隊など約60名が出席しました。

無火災祈願祭では、菅家町長と目黒邦友消防団長が玉串をささげ、地域の安全を祈願しました。訓示では、菅家町長が「今年も町民の安全を守り、防火意識の高揚に努めてください」と話し、目黒消防団長が「広域消防署や南会津警察署との連携を密にし、町民の生命・財産を守るために、今年もよろしくお願いしたい」と述べ、防火意識の高揚を誓い、地域の安全を守る決意を新たにしました。

▲今年1年の安全を祈願する菅家町長

只見農産加工企業組合が
「エゴママイスター」認定報告

1月16日、(一社)日本エゴマ協会が実施する「エゴママイスター認定試験」に合格した只見農産加工企業組合「げんき村」の齋藤幹子さんが役場を訪れ、菅家町長に認定報告を行いました。この試験は、同協会が今年度から行っているもので、全国から12名が「エゴママイスター」の認定を受けました。認定者は、エゴマの調理・栽培などといった指導や畑の検査、同協会が定める品質表示マークの審査・認定などが行えます。齋藤さんは「エゴマの普及や拡大を図り、医療機関と連携した町全体の健康寿命を伸ばしたい」と話しました。

▲認定報告をした齋藤幹子さん(中右)と藤田力さん(中左)

南会津の戊辰を発信

「知られざる南会津戊辰セミナー」開催

1月20日、戊辰150周年を記念して南会津地方の戊辰に焦点を当てた「知られざる南会津戊辰セミナー」が只見振興センターで開催され、町内外から約200名が参加しました。

このセミナーは、県南会津地方振興局と町内の歴史文化・観光団体などで組織する「奥会津只見戊辰150周年記念事業実行委員会」が主催で、これまで触れる機会の少なかった南会津地方の戊辰を紹介したものです。

▲若い世代も参加した南会津戊辰セミナー

セミナーの第1部では、奥会津博物館（南会津町）の渡部康人研究員による「南会津の戊辰戦争」と題した講演が行われました。講演では、江戸幕府領の南山御役知（旧南山御蔵入領）には軍隊が組織されていなかったため、農民から兵士を募集し西軍と戦ったことや、1868（慶応4）年9月22日に会津藩が降伏した以降も、降伏の報が届く同24日まで大規模な戦闘が行われていたことなどが紹介されました。

セミナーの第2部では、「戊辰戦争が南会津に遺したもの」をテーマにパネル討論が行われました。パネル討論では、同事業実行委員会の飯塚恒夫会長、講演を行った渡部研究員、奥会津の戊辰戦争について詳しいフリーライター高橋盛男さん、只見町河井継之助記念館ガイドの五十嵐アツ子さんがパネリストを務め、南会津地方での戦いや当時の人々について語りました。

最後に、「南会津でも戊辰戦争があったことは事実である。多くの方に南会津の戊辰に興味を持っていただきたい」とし、セミナーを締めくくりました。

越後救った「命の種もみ」

奥会津只見戊辰150周年記念事業実行委員会長
飯塚 恒夫さん

会津藩と共に戦った長岡藩が敗れ、兵や家族など約1万5千人が八十里越から只見に逃れてきた。当時の只見は大変貧乏だったが、代官「丹羽族（にわやから）」を中心に住民たちが長岡藩の人々を受け入れ、1人の餓死者も出さなかった。越後の人々を救った親切心は今も「命の種もみ」として語られている。越後との関係は深く、今も交流が続いている。

多くの視点での歴史重要

奥会津博物館研究員
渡部 康人さん

戊辰戦争に対して、一般庶民目線で見る歴史も大事だ。当時の庶民は、会津藩や新政府軍から食料などの提供を求められ、戦闘で亡くなった人もいるなど、双方に協力をしなければならない大変な時代であった。しかし、戊辰戦争は江戸時代の社会の仕組みから解放した意味もあり、歴史にはさまざまな視点が重要だ。

戦争伝えることが大事

フリーライター
高橋 盛男さん

昨年11月号のJR東日本の新幹線車内サービス誌「トランヴェール」に南会津地方の戊辰戦争について執筆した。一般的に知られていないこの地方の戊辰は、驚くことばかりだった。田島陣屋奪還戦の頃から南会津地方には会津藩の統制が効いていない状況になった経緯は興味深い。自然が美しい南会津で悲惨な戦争があったことを伝えていくことが大事。

忠義を貫いたラストサムライ

只見町河井継之助記念館ガイド
五十嵐アツ子さん

戊辰戦争で敗れた長岡藩が只見に逃れる際、八十里越は血と汗と涙の道となった。険しい峠道に女や子ども老人が犠牲になるなど大変悲惨なものであったことを知ってほしい。只見で亡くなった長岡藩家老の河井継之助は、最期まで忠義を貫いたまさに「ラストサムライ」であり、誇りを持ってガイドをしている。

満百歳で知事賀寿を贈呈

楢戸出身の横山イクさん

楢戸出身の横山イクさんが1月15日に満百歳の誕生日を迎えられ、ご家族同席のもと知事賀寿贈呈式が同日、現在入所されている特別養護老人ホーム「あさくさホーム」で行われました。

贈呈式では、県から知事賀寿状と記念品、町からはお祝い金などが贈られました。長男の重喜さんは謝辞の中で「皆さんのお世話になりながらこれからも長生きして、施設の皆さんと楽しく過ごして欲しい」と話されました。

イクさんは子ども1人、孫2人、ひ孫3人に恵まれ、大好きな山遊びで足腰を鍛えられたことが長寿の秘訣とのことです。

▲花束を手にするイクさんとご家族の皆さん

「雪運搬式」で作業の安全祈願

雪まつりに向けた準備進む

1月18日、第46回只見ふるさとの雪まつりの大雪像などに使う雪の運搬式がJR只見駅前広場で行われ、オペレーターや関係者など約20名が出席しました。式では、菅家町長が「大雪像『鶴ヶ城』が無事完成できるよう皆さまのご協力をお願いします」とあいさつしました。続いての安全祈願では、菅家町長が雪を運ぶダンプカー6台のタイヤにお神酒をかけ、会場コーディネーターの小沼信孝さんの発声によりお茶で献杯し、作業員や関係者全員の安全を祈願しました。

雪まつりは2月10日(土)～11日(日)の両日開催されます。

▲雪運搬の安全を祈願する関係者の方々

ふくしまっ子ごはんコンテスト

明和小の大束さんが「最優秀賞」

1月23日、県教委が主催する「ふくしまっ子ごはんコンテスト」小学校上学年の部で「最優秀賞」に輝いた明和小4年の大束咲来(おおつかさくら)さんが役場を訪れ、菅家町長に受賞の報告を行いました。

これは、県内の小中学生が料理の腕前を競うコンテストで、大束さんは自宅の畑で採れた野菜を中心に考案した「野さいを食べて暑い夏を乗りきろうごはん」で、見事「最優秀賞」に選ばれました。報告では、大束さんが「最終審査では実際に料理を作り緊張したが選ばれてうれしかった」と話し、菅家町長が「大変名誉な賞」と大束さんを称えました。

▲賞状を手にする明和小の大束さん(中左)と、多くの児童が頑張った学校に贈られる「学校賞」を手にする渡部校長(中右)

「冬の郷土料理を作ろう」開催

簡単・美味しい漬物づくりに挑戦

1月24日、教育委員会が主催する人材育成事業と只見学民俗文化編の共同講座「冬の郷土料理を作ろう」が朝日振興センターで行われ、人材育成8期生など約13名が参加しました。講師に酒井佑子さん(坂田)を迎え、冬の郷土料理である漬物の漬け方を学びました。講座では、大根などのしょうゆ漬けやいか人参といったメニューに挑戦し、簡単で美味しい漬け方などを学びながら実践しました。参加者からは「この機会に家でも作ってみたい」という声が聞かれました。今回漬けた漬物は、2月7日の講座の中で実食する予定です。

▲漬物づくりに挑戦した参加者の皆さん

渋谷で交流を深める
「只見餅つき隊」が地元をPR

1月8日、若者や外国人でにぎわう東京・渋谷で開かれた「新春道玄坂チャリティー餅つき大会」に、町内の農家を中心とした約10名の「只見餅つき隊」が参加し、町産米でついた餅を振る舞いました。これは、渋谷道玄坂商店街振興組合などが企画しているもので、餅つき隊は4年連続で参加し、迫力の餅つきを披露しました。来場者と一緒についた餅は会場内で販売され、売上金はチャリティーとして寄付されました。また、会場では米焼酎「ねっか」の試飲や雪まつりのPRなども行われ、渋谷と只見町の交流が深まりました。

▲外国の方々も一緒に体験した餅つき大会

5年間の町の行政改革大綱
「第4次只見町行政改革大綱」答申

1月19日、町の5年間の行政改革の根幹を担う、「第4次只見町行政改革大綱(案)」に対する答申書が、佐藤克彦行政機構改革審議会長から菅家町長へ提出されました。これは、12月7日に佐藤会長へ大綱(案)の諮問を行ってから、学識経験者など13名の委員により3回の審議会を経て、今回の答申となったものです。答申で佐藤会長は「審議会の意見を参考に、大綱の推進と執行に努められたい」と述べられました。町では、平成30年度から大綱に基づき効率的な行政経営と質の高い行政サービスの推進を目指します。

▲菅家町長(右)へ答申する佐藤会長(左)

町の重要文化財を火災から守る
「成法寺観音堂」で消火訓練

1月28日、国指定文化財「成法寺観音堂(梁取)」で消火訓練が行われ、梁取・小林・大倉地区の消防団と明和婦人消防隊梁取支部、広域消防署只見出張所など約60名が参加しました。これは、文化財防火デーの一環として町内の文化財施設で毎年防火検査などを行い、2年に1度、成法寺で消火訓練を行っているものです。

訓練は、本堂からの出火を想定し、本堂付近に向かって一斉に放水したほか、設備の防火検査などを実施しました。最後に、目黒邦友消防団長が「この訓練を教訓に、有事の際に備えてください」と訓示しました。

▲一斉に放水する消防関係者の方々

集落と交流団体が協力
活気あふれる布沢のオンベ

1月14日、小正月の伝統行事オンベが布沢集落で行われ、地域住民のほか宇都宮大学の地域活性化サークル「D―フレンズ」の学生やJR東労組東京地本の方々など約70名が参加しました。オンベの準備では、地域の若手でつくる若宮会と婦人会を中心に、大学生やJR東労組の方々の協力を得て行われました。午後4時、年男年女により点火されたオンベは勢いよく燃え上がり、参加者は餅などを残り火であぶりながら食し、無病息災を祈りました。交流団体の方々が多く参加した布沢のオンベは、活気にあふれるものとなりました。

▲残り火で餅などをあぶる参加者の皆さん